



ネッツワーク

「まちかどネットワーク」は、皆さんの地域の話題を中心にお届けするコーナーです。

皆さんの身近で起こった出来事、御意見などをお寄せください。連絡先：市内永田町一〇〇 市広報広聴課 電話一〇二三 内線三八三

締め切りは毎月十五日です。

市長への手紙から

市営の墓地が

できませんか

このコーナーは「市長への手紙」をお寄せくださった人の中から、意見・提言などを紹介します。今回は、富士見台六の倉本和代さんの「市営墓地の建設」についてです。（「市長への手紙」の用紙は、各公民館などにあります。）



倉本和代さん

〈市長への手紙〉
日本一のすばらしい富士山を眺めながら、毎日過ごさせていだだいておられます市民の一人です。初めてお便りさせていただきましたが、私は昭和四十二年から二十二年間富士市にお世話になり、現在に至っております。やっとうちの子供が独立し始めた最近、地方出身の私は墓地の事が

気になってきました。このすばらしい富士市に市営の墓地はないのでしょうか、いろいろな人にお尋ねしましたが、今のところないとのことでした。

実は、富士宮市の朝霧霊園を見に行ってきました。場所（環境）はすばらしいし、価格的にもいいのですけど、やはり富士市ではないので二の足を踏んでしまいます。富士市で、あの様な霊園を造成される事は、全然予定されてないのでしょうか。

地元の方々は必要のない事と思えますが、発展している都市で、地方出身の人も多くなっているのではないのでしょうか。



調査し、検討します

〈市長の答え〉

市長への手紙ありがとうございます。

富士市も都市化が進み、市内の寺院や墓地などの拡張は難しくなっているのが現状です。

倉本さんの市営墓地の建設をとの御要望ですが、市は将来に向けて、霊園墓地の建設が必要となるものと考えています。

今後、まず基礎的な調査をします。そして、霊園として環境や周辺の状況などが適した場所があれば、建設に向けて研究検討していきたいと思っております。

東京で富士山をイメージした陶芸の個展を開いた

鈴木道雄さん

(鈴川町5・55歳)



二月十一日から二十一日まで、新宿・伊勢丹デパートで開いた個展では、美術画廊部門で伊勢丹始まって以来の入場者となりました。それもそのはず、市の陶芸教室で教えた二百人を超す生徒がバスで大挙上京したというのですから、作品はもちろん一流。その上、謙虚で実直、そして情熱家という



鈴木さんの人間性が、改めて評価されたと言つてよいでしょう。個展のテーマは「富士を謳う」。富士山と田子の浦の松を大皿や陶額に表現した作品百点を並べました。ほとんどの作品が売約済となり、大成功でした。

「陶芸家としては、まだ鼻ツレ小僧。陶芸の普及を強力に進めてくれた富士市に、今後二十年は文化の還元を考えている」と頼もしい言葉。

トレードマークは色眼鏡。「目が悪いのでしょうか」との愚問に「色の見極めに目が一番大切。保護のためです」と言つてふつうの眼鏡に。失礼しました。